

さく 薫くみこ
イラスト ふわこういちろう

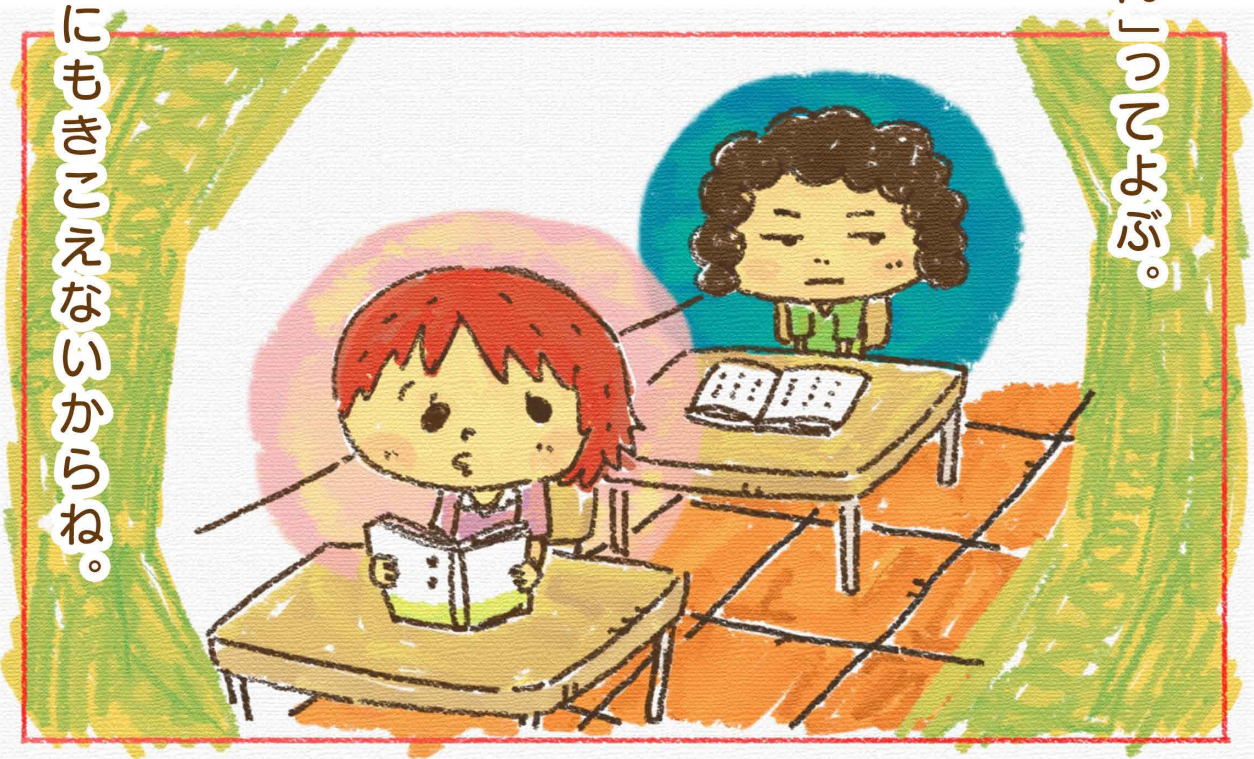
わたしには、とくべつなかよしな友達がいる。
でも、前はちっともすきじゃなかったんだ。
そんな気持ちはかくしていたけどね。



わたしのせきははじっこで、
うしろのせきにしっこさんがいる。
ほんとは「きくちまりか」なんだけど、
おしっこもらしてばっかりいるから
「しっこ」ってなまえにされちゃった。

でも、わたしは「きくちさん」ってよぶ。
ときどきしっこの中で

しっこ



ってよぶけど……。
ごころの中でいうのはだれにもきこえないからね。

しっこさんはすこしかしゃべらない。
いつもおこったみたいなかおをしてる。

しっごさんは

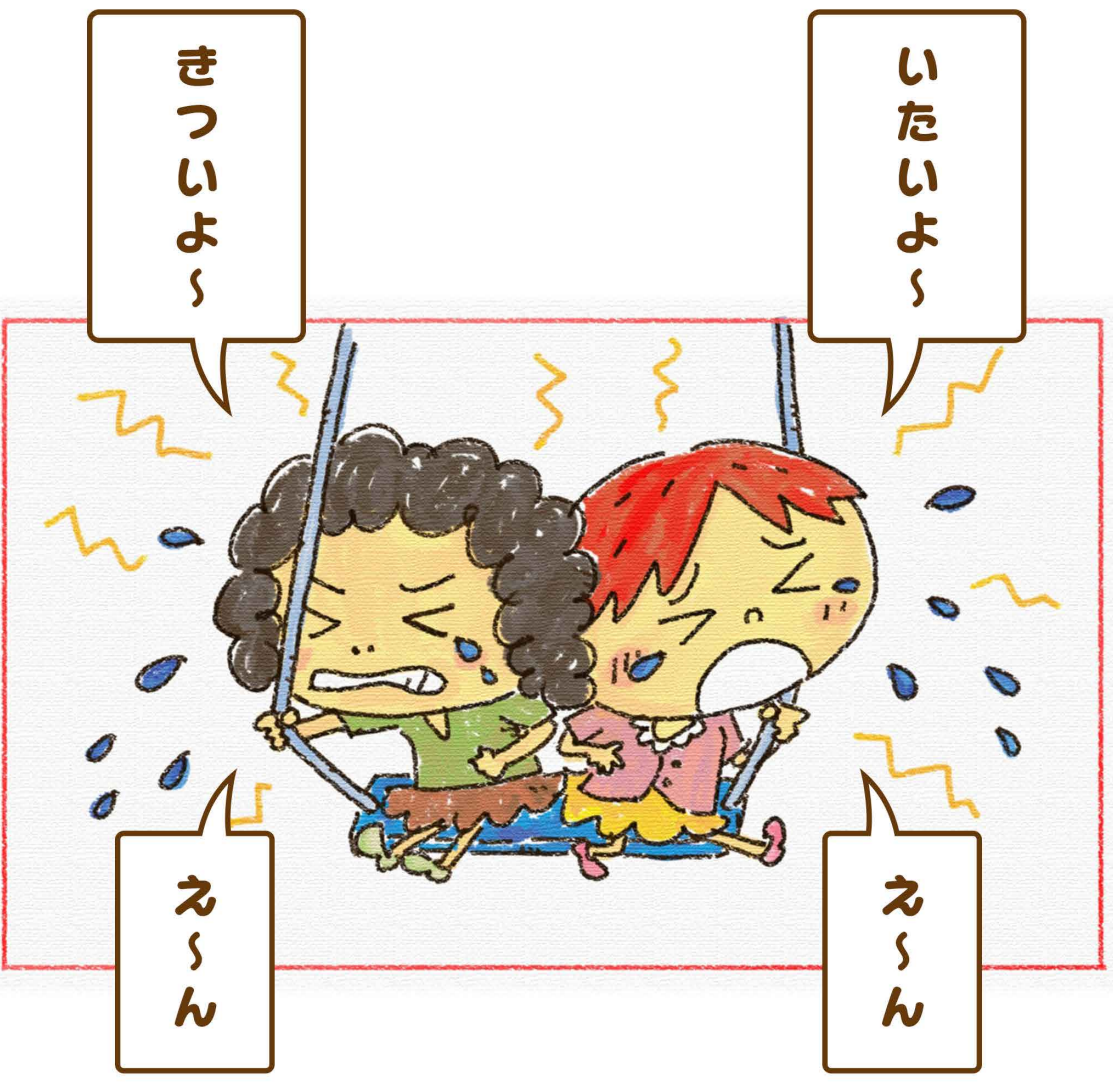
ときどきわたしのじゃまをする。

「あっちにのってよ」

「わたしこれがいいんだもん」

わたしはさっとブランコにすわってやった。

そしたらしっごさんもむりやりすわってきた。



わるくちが

からだじゅうで

あばれまわった。



うしろのうしろ
をうしろのうしろ

うしろのうしろ

うしろのうしろ
うしろのうしろ



うしろのうしろ
うしろのうしろ



たごころぐぞ
しつごさんだ

ほけんしつにいったら
しつごさんがいた。

「あらま、おなじところを
けがしてなかよしね」
ほけんのせんせいがわらった。



ごころの中でいったら、
しつごさんの目がつりあがった。
わたしはむねがどきつとした。
よこをむいてごまかした。



まごことまごごが
しんだ。

まごこのほか
ぎゆうにゆうをいれて
しなせた。



「ごめんなさい、もうしません」

まごことがあやまったら、しっこさんはいった。

「ごめんですめばけいさつはいらないよ」

せんせいはいっこさんをしかったけど、

わたしはなるほどね、とかんしんした。

しつこさんときんぎよのおはかをつくった。
しつこさんがいった。

「まことのあたまを百かいたたいで、
たんこぶだらけにしてやりたい」

わたしもいった。

「おへそにくうきいれをつつこんで、

ぷーぷーふくらまして、

アメリカまでとばしてやりたい」





しっこさんがわらった。
わたしもわらった。

空を見たら、
ひこうきぐもが
すーっとまっすぐ
のびていった。

かえりみち。石をけってあるいて
いたら、「おーい」と、こえがした。
見ると、ちいさなしっこさんが
手をふっていた。

「おーい」

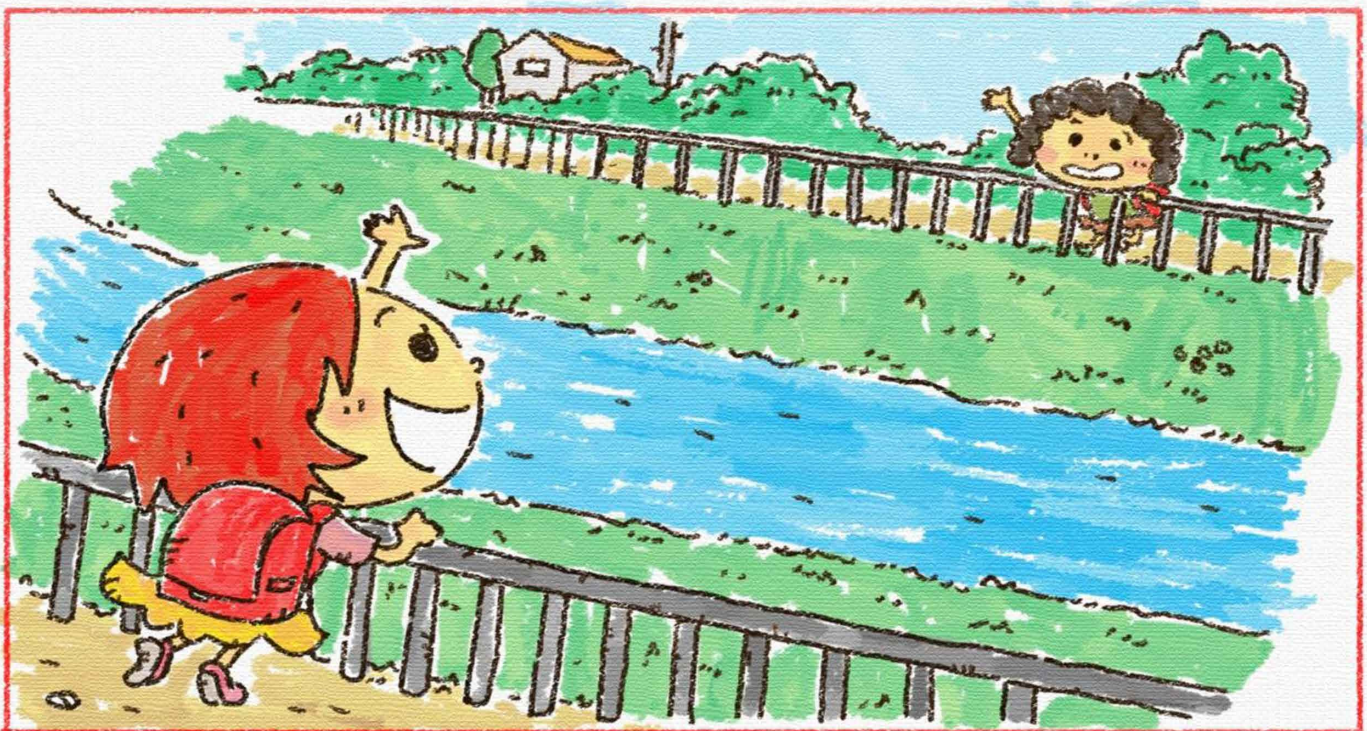
「おーい」

「あしたねー」

「うん、あしたねー」

「ばいばーい」

「ばいばーい」



つぎの日、目がさめたら

ねつがでていた。

わたしはないて

がっこうにいくといっただけど、

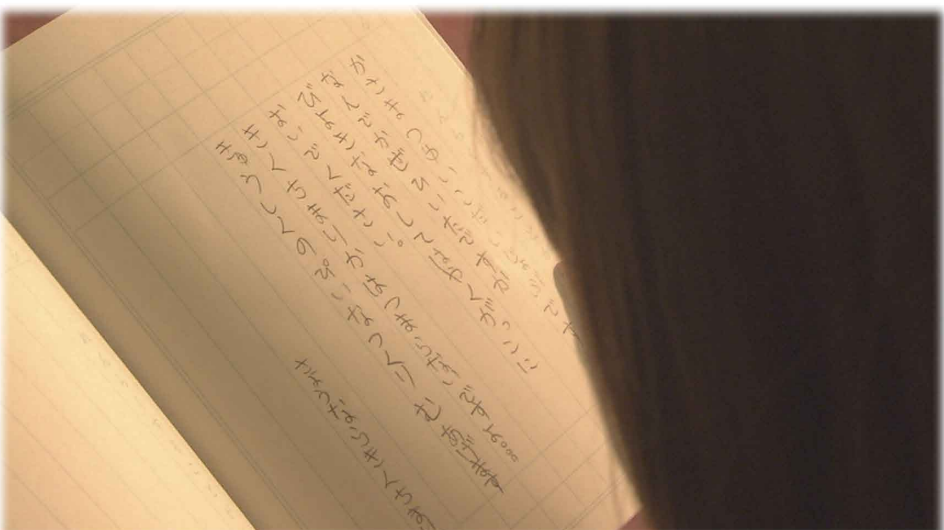
おかあさんに「だめ」といわれた。

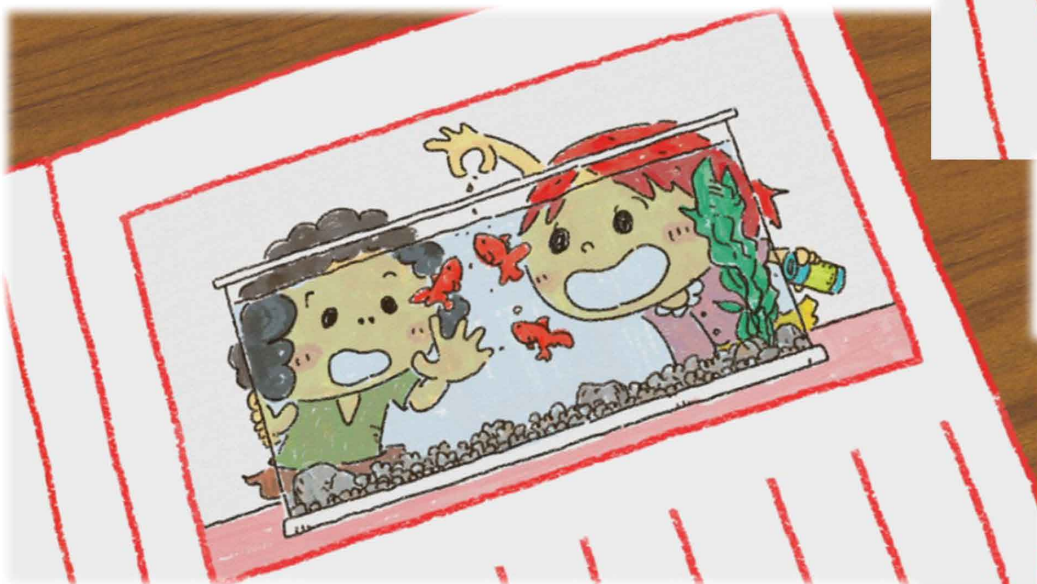


ゆうがた、れんらくちょうが
ポストにはいつていた。
しつこさんだった。

かさまつゆいこだいじよぶですが
なんで、かぜひいたですか
ぶよきなおして

はやくがっこうにおいでください。
きくちまりかはつまらないですよ。。。
きゆうしくのぴいなつくりもあげます
さようならきくちまりか





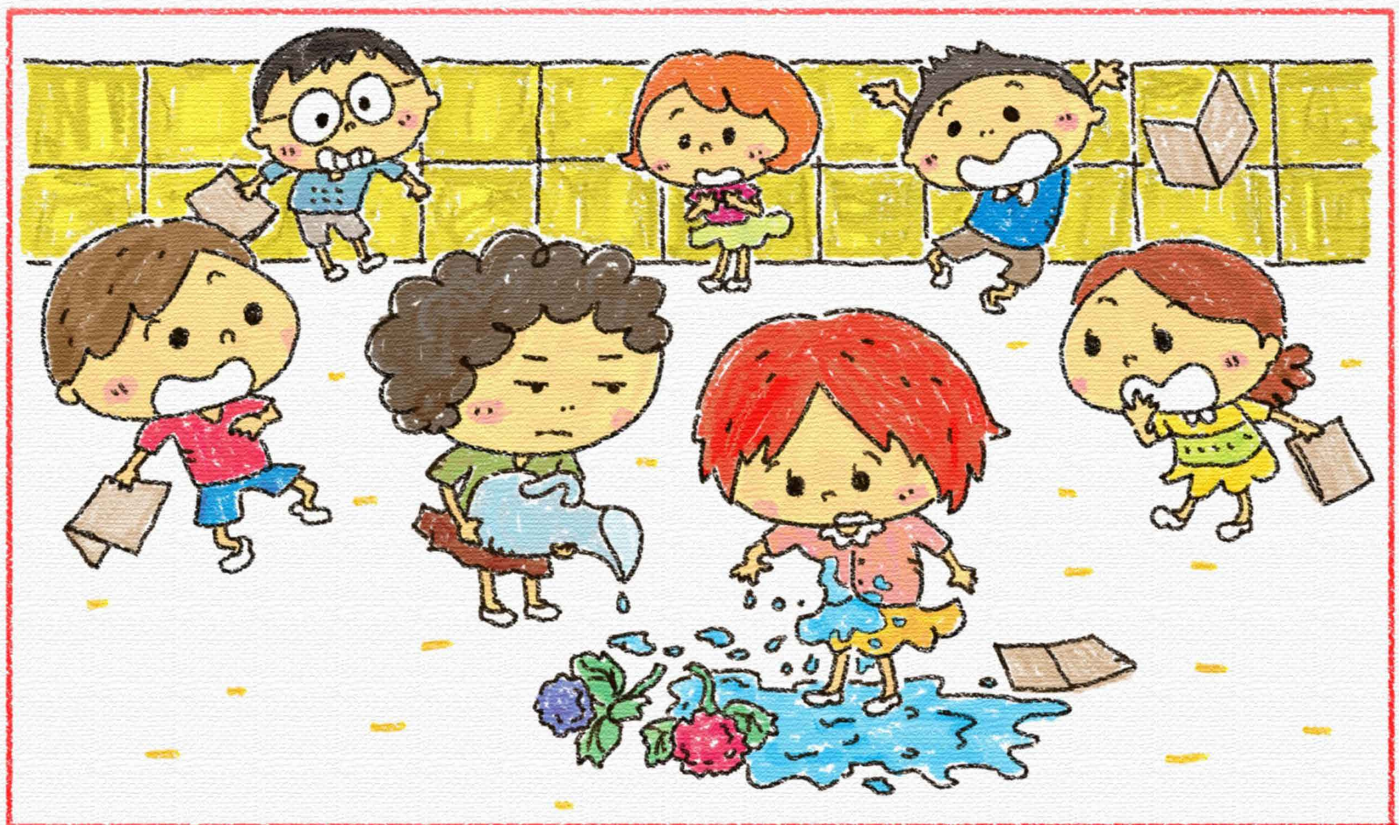
うたをうたつてるとき、おしっこがしたくなくなった。
もうちょっともうちょっと、
とがまんをしてうたっていたけど、
足ぶみをしたとき、
おしっこがでてしまった。

くつしたがぬれてく……。
うわばきもぬれてく……。

わたしは下をむいた。
どうしよう。
どうしよう。



ザーツとうしろでおとがして、
わたしの水たまりがながされた。
ふりむくと、しっごさんが、
かびんをさかさにもってたっていた。



しつこさんは

せんせいがおこつてもだまっていた。

ろうかにだされてもだまっていた。



かえりのかいのあいだじゅう、

わたしはこころの中でいつていた。

おんちゃん、

ぐめんね。

まりがちゃん、

ぐめんね。

じいさんなんて

もっかいわな。

わたしはわるい。わたしがわるい。

まりかちゃんがゆるしてくれるまで、

わたしは百まんかいでも

五百まんかいでもずっとあやまる。

「んっ」

「まよいかちゃん、
めいね」



おわり